

岡崎市将来推計人口

概要版

2024年3月

岡 崎 市

はじめに

1 調査目的

次期の岡崎市総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の改定に向け、本市の人口の現状分析及び将来人口の推計を行い、将来に対する課題の整理を行う。

2 調査内容

(1) 基礎データの収集整理及び分析

公開されている基礎データを収集整理し、本市の過去から現在までの推移を分析する。

(2) 地域別の基礎データの収集整理及び分析

公開されている市内8地域の基礎データを収集整理し、過去から現在までの推移を8地域ごとに分析する。

(3) 将来人口の推計及び分析

2020年の国勢調査の結果を基準人口として、2055年までの推計人口及び2105年までの超長期推計人口の将来予測を行い、主な特徴や傾向等の分析を行う。

(4) 地域別将来人口の推計及び分析

2020年10月1日現在の住民基本台帳人口を基準人口にしつつ、全市の2020年の国勢調査の結果の総人口と一致させながら、市内8地域ごとの2055年までの推計人口の将来予測を推計し、主な特徴や傾向等の分析を行う。

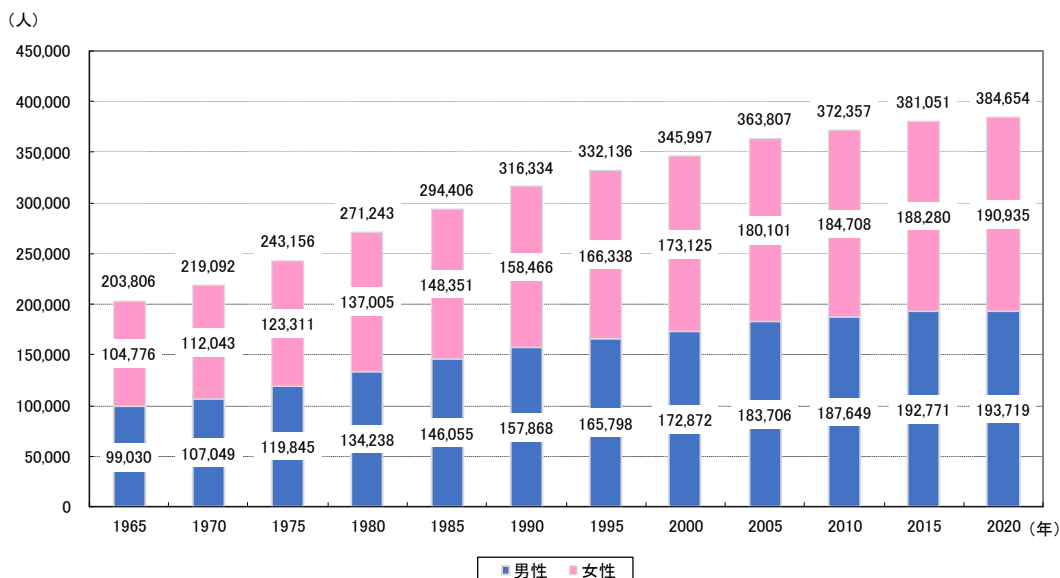
(5) 課題整理

上記の(1)~(4)の結果をもとに、将来に対する課題などを整理する。

基礎データの収集整理及び分析

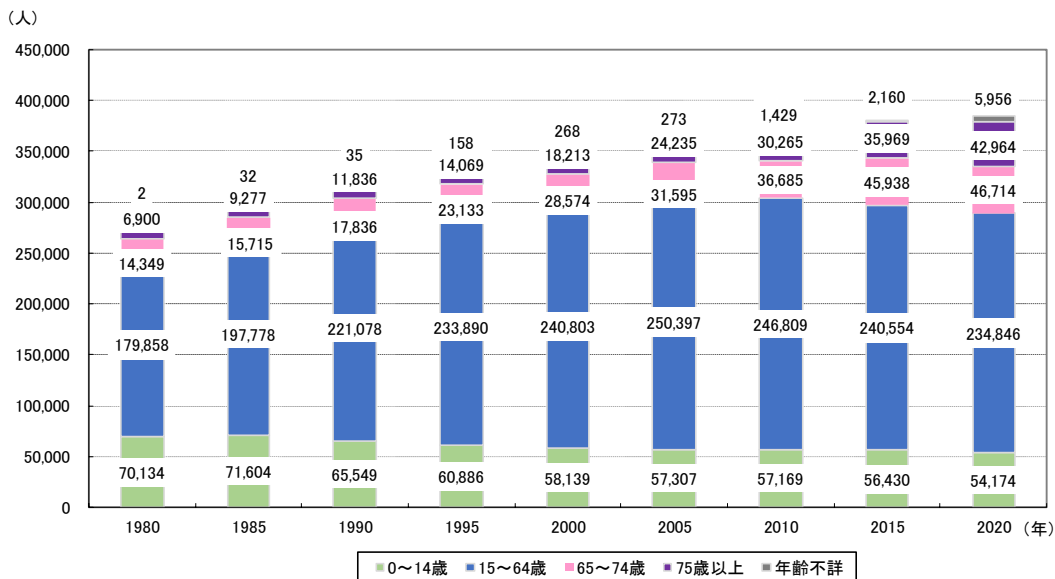
- ✓ 人口は2020年まで増加し続けている。
- ✓ 2000年までは女性人口の方が多いが、2005年以降は男性人口の方が多い。
- ✓ 0～14歳（年少人口）は、1985年をピークに減少傾向である。
- ✓ 15～64歳（生産年齢人口）は、2005年をピークに減少傾向である。
- ✓ 65～74歳（前期高齢者）、75歳以上（後期高齢者）は増加傾向である。

男女別人口の推移



出典：国勢調査（市町村合併前（2006年以前）の旧額田町の人口含む）

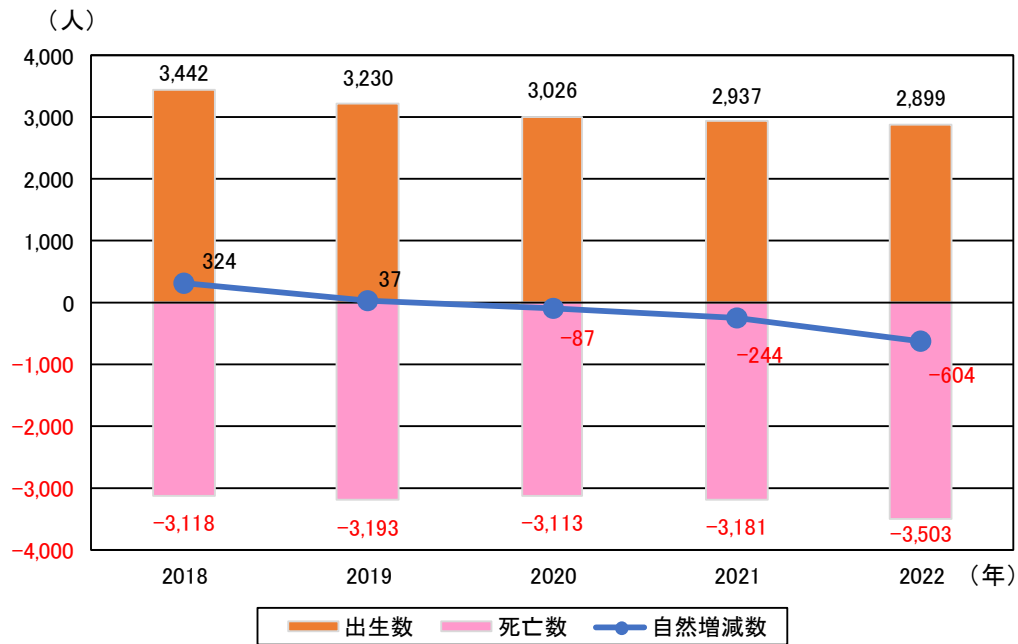
年齢4区分別人口の推移



出典：国勢調査（市町村合併前（2006年以前）の旧額田町の人口含む）

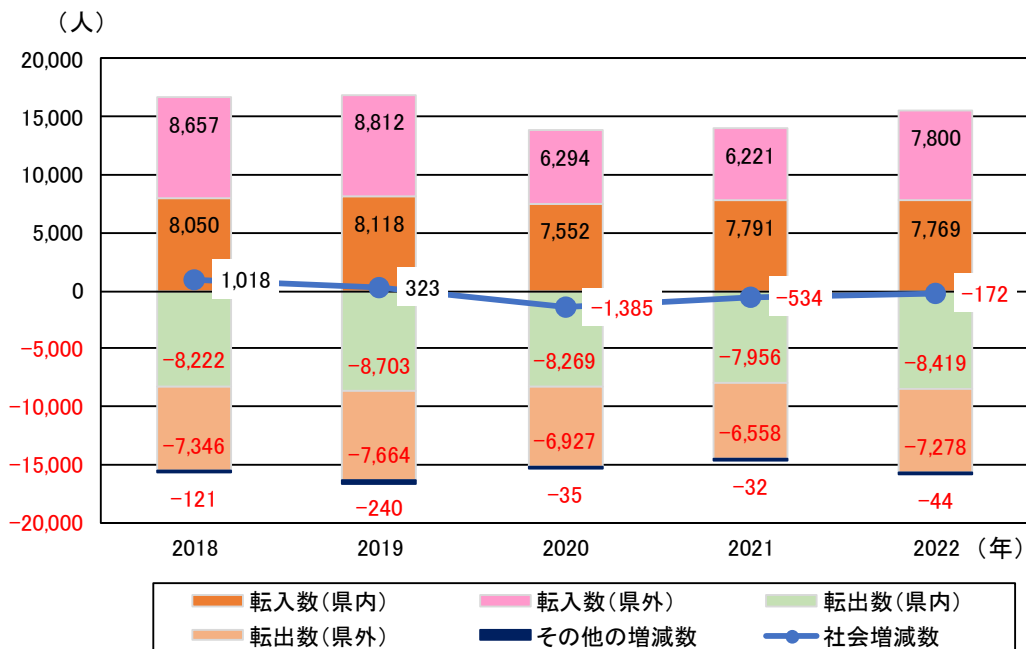
- ✓ 出生数は減少傾向であり、死亡数は横ばいであったが 2022 年に増加している。
- ✓ 転入数は増加傾向であったが 2020 年に減少し、その後は増加傾向となり、転出数は増加傾向であったが 2020 年に減少に転じ、2022 年からは増加している。
- ✓ 2019 年までは自然増、社会増であったが、2020 年以降は自然減、社会減である。

自然増減数（出生数、死亡数）の推移



出典：愛知県人口動向調査（各年は前年 10 月 1 日～当年 9 月 30 日の合計）

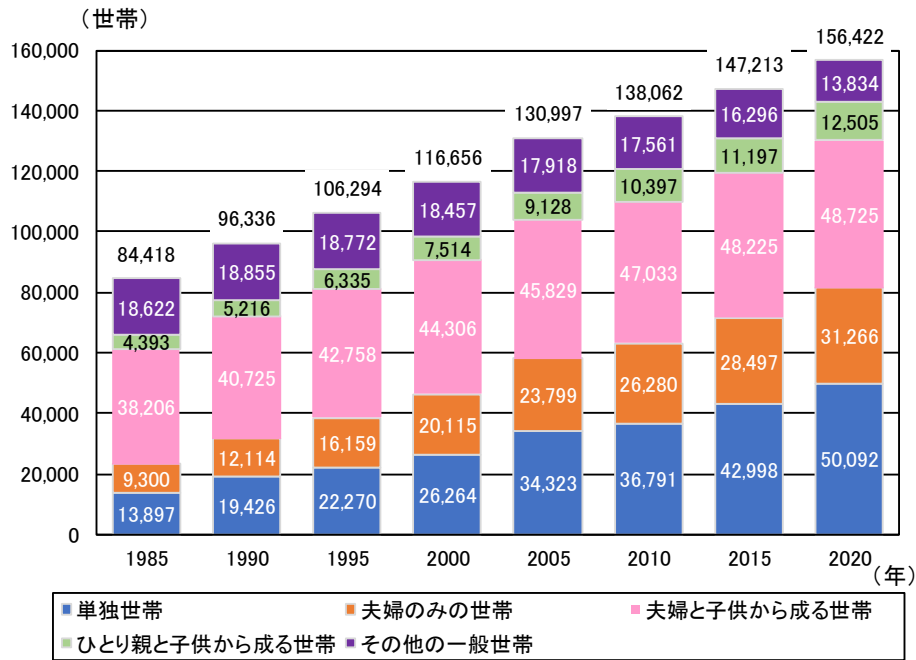
社会増減数（転入数、転出数）の推移



出典：愛知県人口動向調査（各年は前年 10 月 1 日～当年 9 月 30 日の合計）

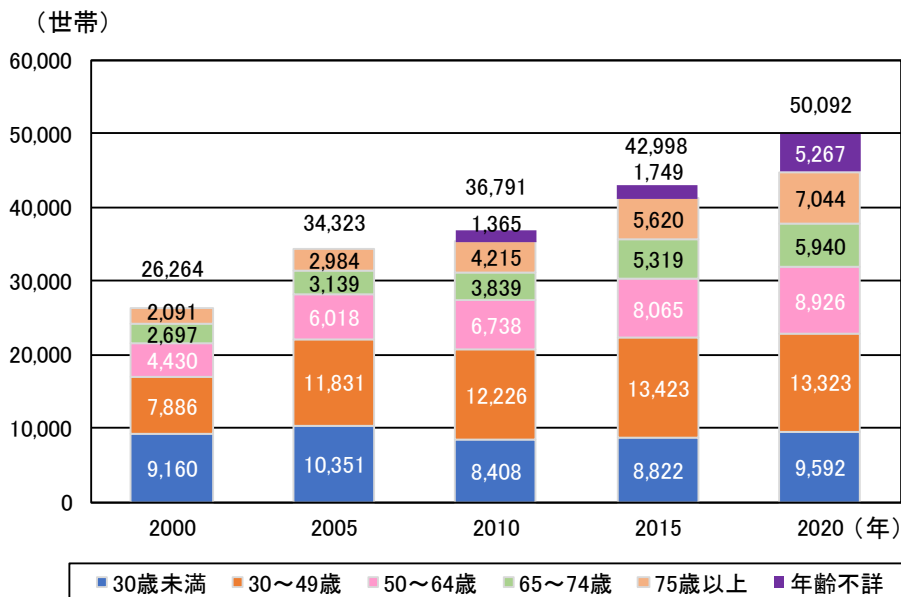
- ✓ 施設等の世帯を除いた一般世帯は、増加傾向である。
- ✓ 2020年は、単独世帯が32.0%、夫婦のみの世帯が20.0%、夫婦と子供から成る世帯は31.1%、ひとり親と子供から成る世帯は8.0%である。
- ✓ 2000年時点では、30歳未満、30～49歳の単独世帯が多くを占めていたが、近年は、65～74歳、75歳以上の高齢の単独世帯が増加している。

家族類型別一般世帯数の推移



出典：国勢調査

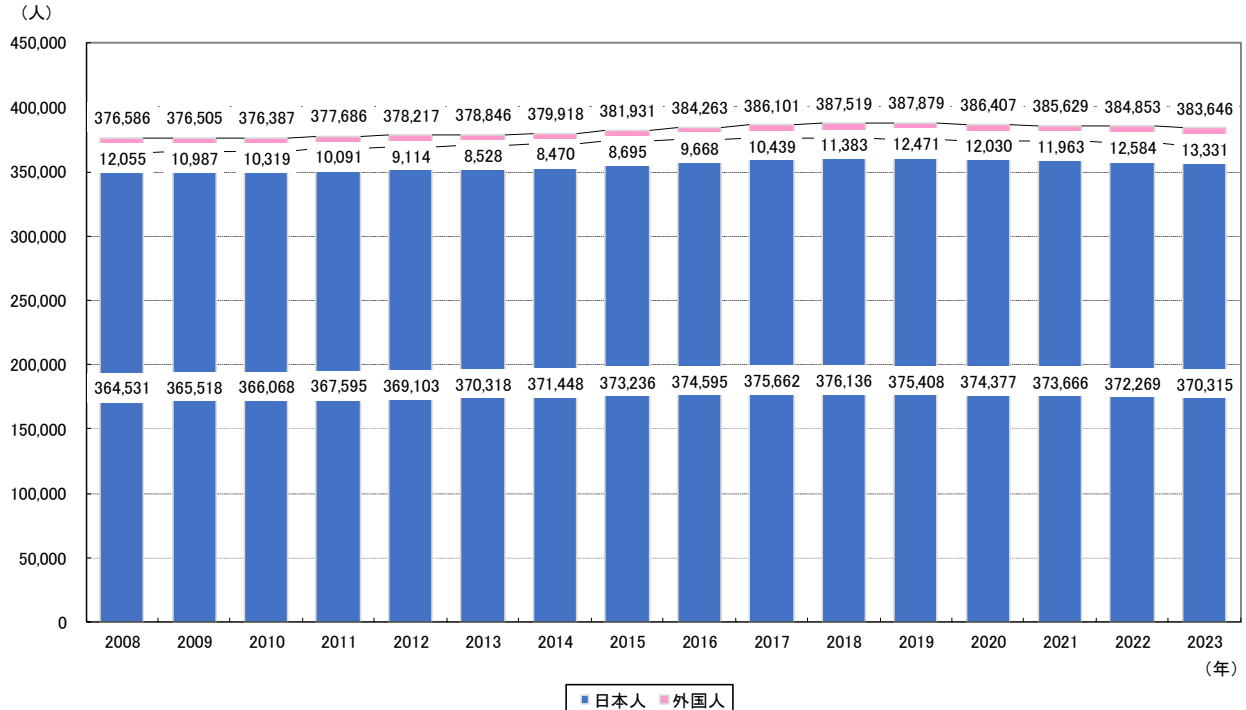
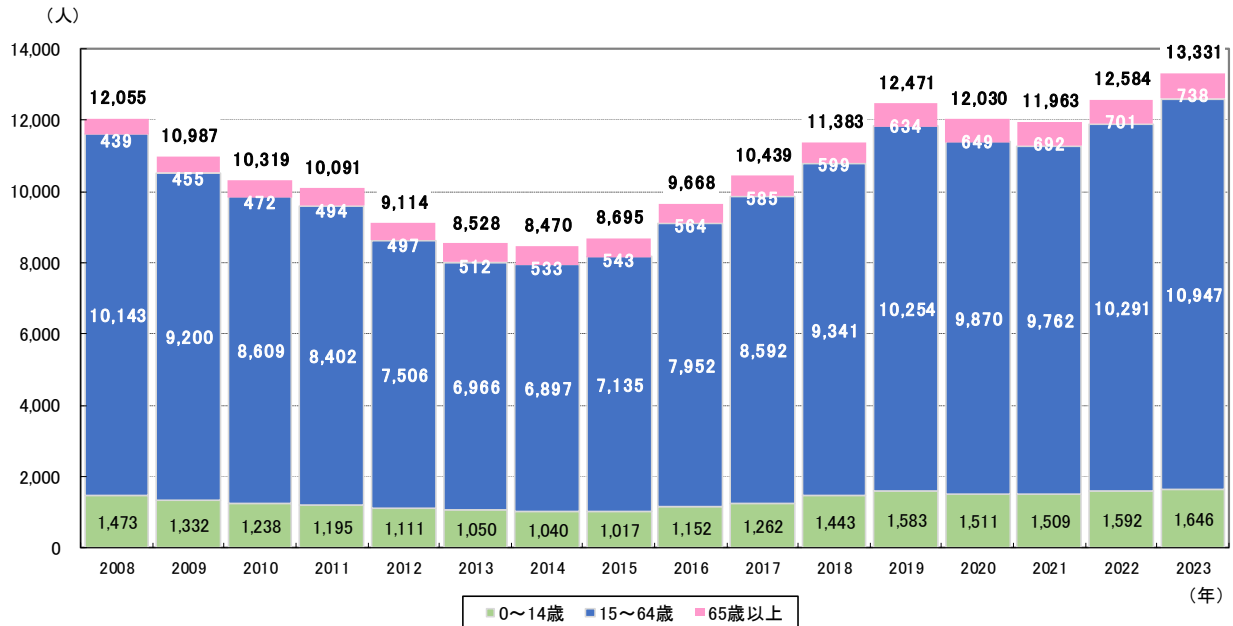
年齢別単独世帯数の推移



出典：国勢調査

- ✓ 外国人人口は、2008年以降、減少傾向であったが、2014年以降は増加し、2020年には新型コロナウイルス感染症の影響で減少したものの、近年は増加している。
- ✓ 外国人の流入によって本市の人口減少が緩やかになっている。

外国人人口の推移

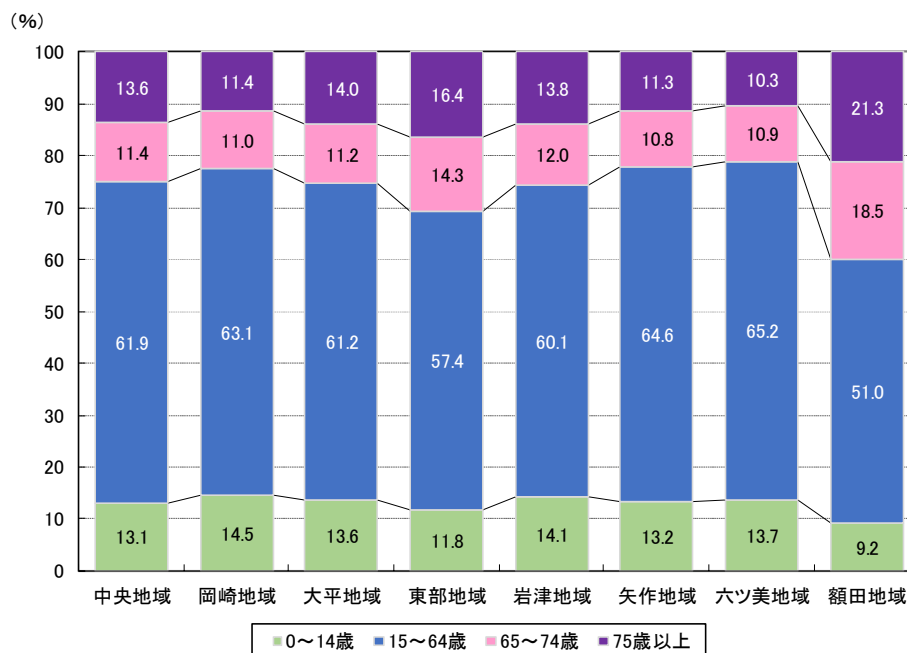
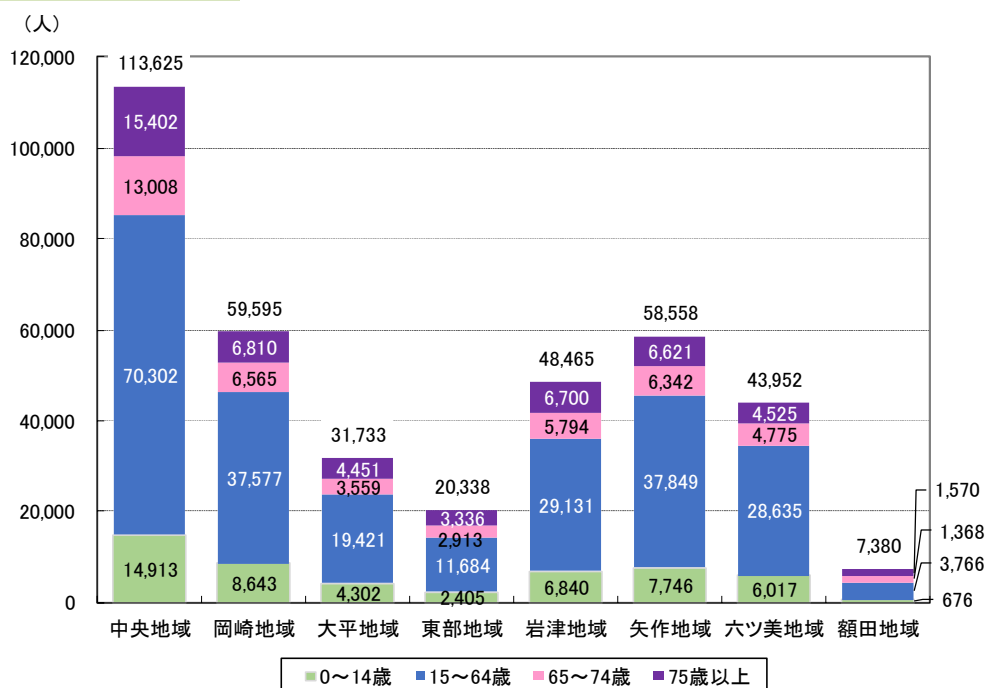


出典：外国人登録、住民基本台帳人口（各年10月1日現在）

地域別の基礎データの収集整理及び分析

- ✓ 各地域の人口は、最も多いのは中央地域（29.6%）であり、最も少ないのは額田地域（1.9%）である。地域による人口のばらつきがある。
- ✓ 65～74歳、75歳以上の割合は額田地域が最も高く、65～74歳の割合が最も低いのは矢作地域、75歳以上の割合が最も低いのは六ツ美地域である。

年齢4区分別人口の比較

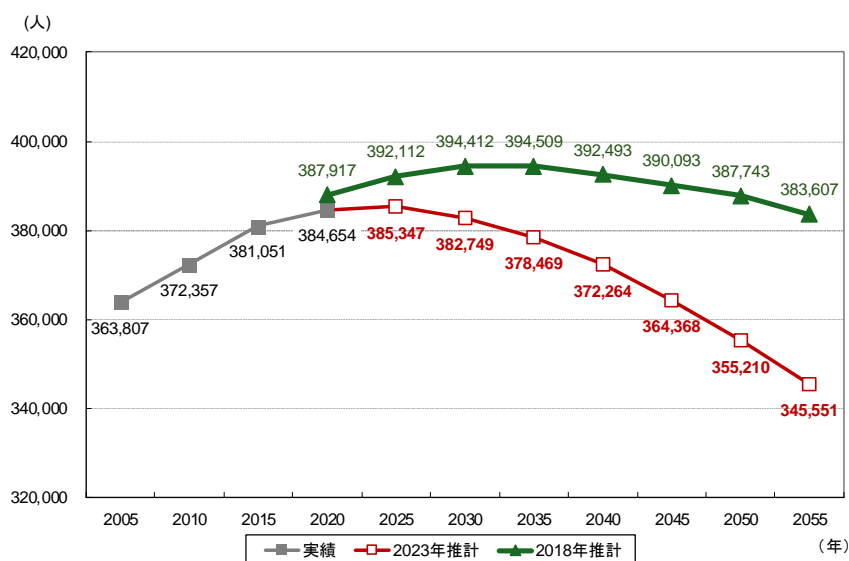


出典：住民基本台帳人口（2023年10月1日現在）

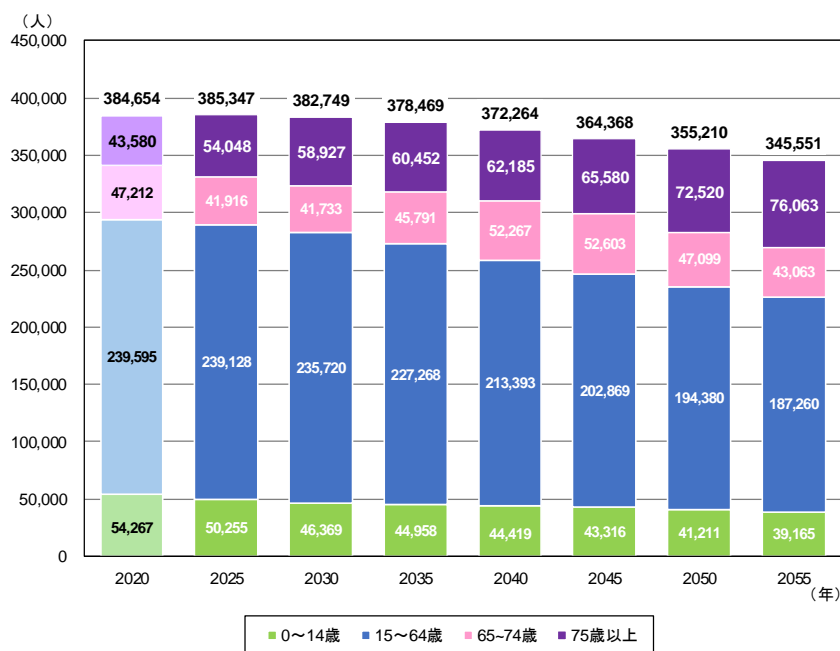
将来人口の推計及び分析

- ✓ 前回推計（2018年）よりも急速に人口減少が進む結果となっている。
- ✓ 将来人口は、2025年の385,347人をピークに減少し、2020年と比べて2055年には10.2%減少する見通しである。
- ✓ 35年間で0～14歳は15,102人、15～64歳は52,335人減少する見通しである。
- ✓ 2055年には、65～74歳は43,063人、75歳以上は76,063人となり、65歳以上の高齢化率は34.5%になる見通しである。

将来人口

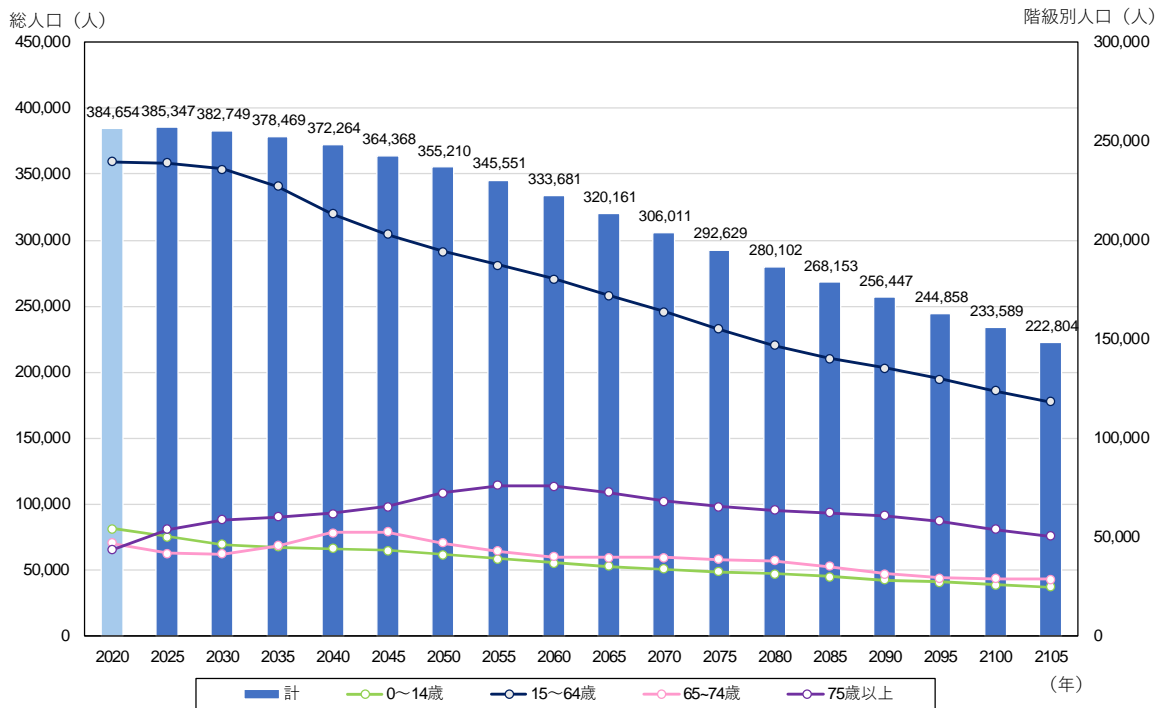


年齢4区分別の将来人口

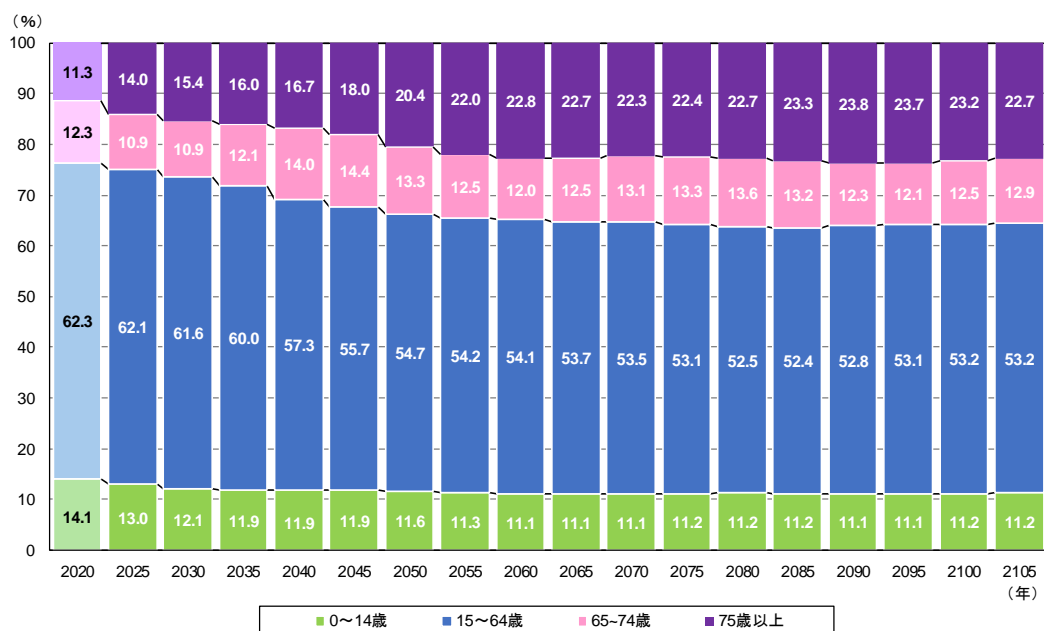


- ✓ 超長期の将来人口は、2025年の385,347人をピークに減少を続け、2105年には222,804人になり、減少率は42.1%になる見通しである。
- ✓ 0～14歳、15～64歳は減少し続ける見通しである。
- ✓ 65～74歳は2045年をピークに緩やかに減少する見通しである。
- ✓ 75歳以上は2055年をピークに減少する見通しである。

超長期の将来人口

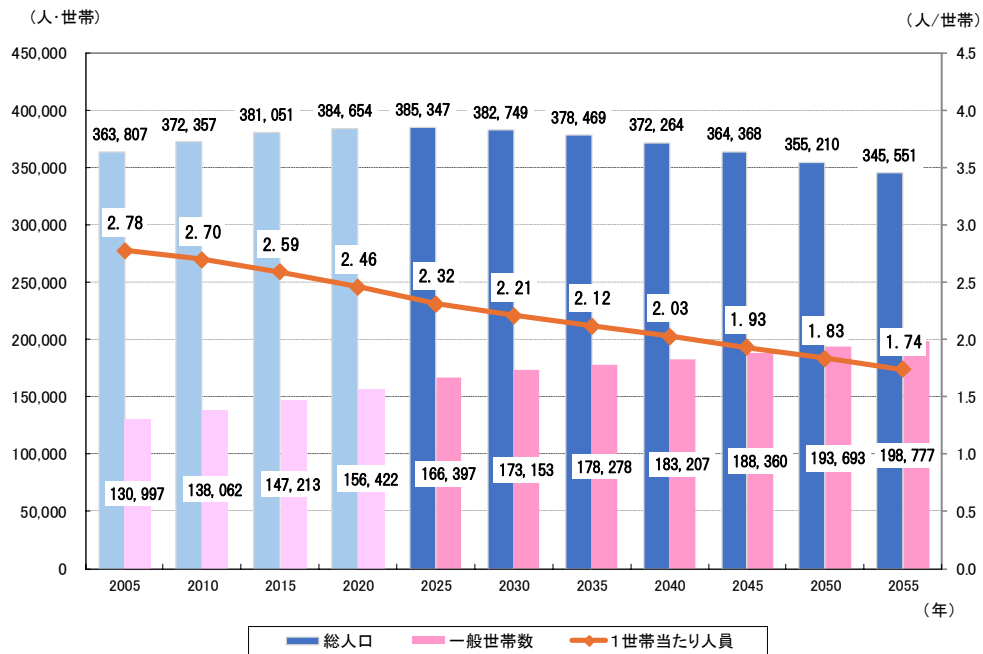


超長期の年齢4区分別人口比率

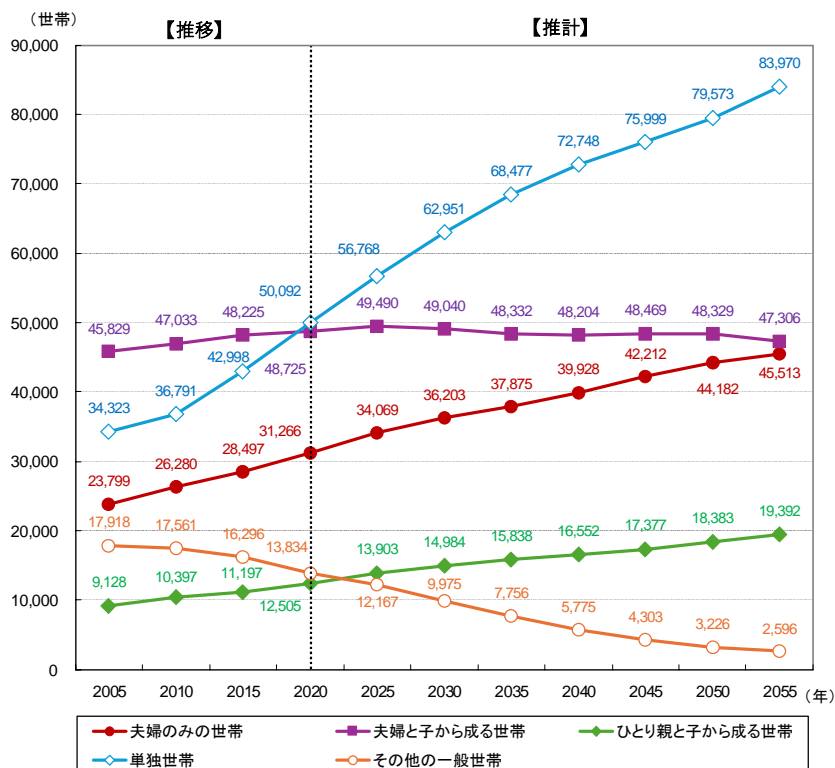


- ✓ 施設等の世帯を除いた一般世帯は、2055年まで増加し続け、1世帯当たり人員は減少し続ける見通しである。
- ✓ 少子高齢化が進む中、単独世帯、夫婦のみ世帯が今後も増加する見通しである。
- ✓ 2055年には、単独世帯が全世帯の4割以上を占める見通しである。

将来の世帯数



将来の家族類型別世帯数

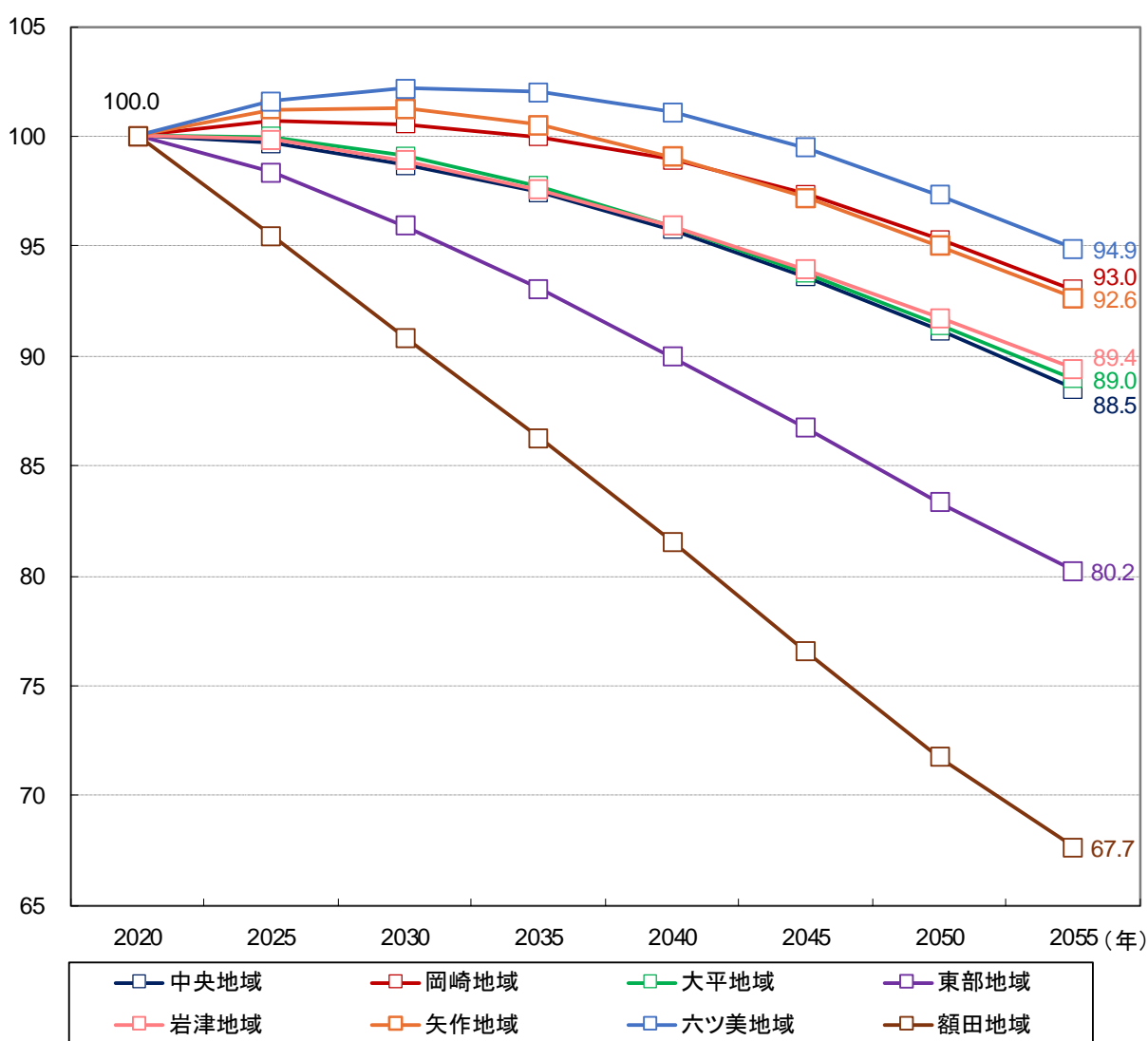


地域別将来人口の推計及び分析

- ✓ 全ての地域において減少するが、地域によって人口減少の状況は異なる。
- ✓ 2020年を100とした指数をみると、六ツ美地域、岡崎地域、矢作地域では90程度、岩津地域、大平地域、中央地域では90弱程度、東部地域では80程度になる見通しで、特に額田地域では67.7まで落ち込む見通しである。

将来人口の減少率

2020年=100



課題の整理

1 全市の課題

(1) 人口減少への対応

人口減少を見据えた行財政運営やまちづくりを進めていくとともに、減少する人数を少しでも減らし、労働力等を確保できるように、国内外からの転入促進と転出抑制を図る施策・事業への取り組みが求められる。

(2) 超高齢社会への対応

超高齢社会が進むにつれて、社会保障費関連が高まることになるため、健康寿命を延ばし、誰もが生涯にわたって、希望や生きがいを持って働き、活躍できる社会づくりをすることや、地域での高齢単独世帯の見守り活動などが求められる。

(3) 少子化への対応

未婚化、晩婚化を解消し、結婚、出産・子育てがしやすい社会を作っていくために施策・事業をより一層充実していくことが求められる。

(4) 転入促進、転出抑制への対応

テレワークや地方移住を積極的に取り入れながら、本市に住んでみたいと選ばれるまちになるように、安心・安全に暮らせる地域づくりや子育てしやすい地域づくりなどを行い、本市への転入を促進していくことも求められる。

(5) 労働力不足への対応

地域活力の維持や地域課題の解決のためには定住人口だけではなく、関係人口を巻き込んで取り組んでいく必要があり、市外に住む出身者、従業者、観光客などから関係人口を創出する取り組みを進めていく必要がある。

(6) 世帯数増加への対応

今後も住宅供給が求められるが、一方で、空き家も増加していくため、空き家の流通促進やリノベーションなどの空き家対策及び活用への取り組みが求められる。

2 地域の課題

(1) 地域の人口規模の格差

地域によって人口規模や減少度合が異なるため、地域において顕在化する課題も異なることが予想される。特に額田地域では、より一層過疎化が深刻な状況になることが予想される。

(2) 少子高齢化への対応

全ての地域で65歳以上の人口比率が30%を超える状況になるため、少子高齢化に対応したまちづくりへの取り組みが求められる。